



## 「3.11からの出発」活動のご報告 No.15

東日本大震災から3年半あまりたちましたが、この間、当館では「3.11からの出発」プロジェクトの活動資金を得るため、「チャリティお話会」を開催してきました。子どもがたのしく本に出会うために、私たちが大切にしている「お話」で、支援の輪を広げたいとの願いから始まったものです。今号では、これまで5回開かれたお話会の様子をお伝えいたします。

第1回は2011年9月19日に、午前1回、午後2回の3部にわたっておこないました。語り手は総勢20名<sup>\*</sup>。当館の「おばあさんのいす」事業で活躍して下さったベテランの方々にお声がけしたところ、北海道から九州まで、皆さん、「待っていました」とばかりに集まってくださいました。何十年ものあいだ、子どもたちにお話を届けてこられた語り手だけに、お話はどれも味があっておもしろく、「動物のお伊勢まいり」（大阪の昔話）、「見てもとまらない話」（福井の昔話）など郷土のお話や、『小さなスプーンおばさん』より「おばさん、ちいさくなる」を語る方もいらして、バラエティーに富んだお話会になりました。

第2回は2012年6月22日に、山形県から木村恵子さん、神奈川県から柴崎妙子さんをおよびしました。古くからのお友だちであるおふたりは、「ぼくのおまじない」（『おはなしのろうそく2』）を掛け合いでしてくださいました。木村さんが山形のこぼで語られた「笠地藏」では、雪深い情景が目の前に浮かぶようでした。

第3回目は同年の秋、9月17日。語り手には、当館の講習会で出会った梅田恵子さんと松原和子さんをお迎えしました。このおふたりは「梅」と「松」という、めでたいお名前に加えて、福岡と福井在住の“福・福コンビ”。梅田さんは、地元の子どもから教えてもらったという「じーばば」や、「べろべろの神さん」という手遊びもご披露してくださいました。

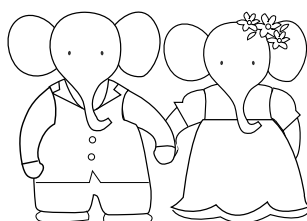
第4回は、横浜の歴史のあるお話グループ「かたやきばん」から菊島紘子さんと光山昌子さんにおいでいただき、昨年9月20日に開催しました。子どもたちとのやりとりのエピソードも交えて、ふだん子どもたちにしているそのままの感じで語ってくださいました。

第5回は、今年の9月12日におこないました。語り手は「くにたちお話の会」より、光野トミさんと菅原汎子さん。光野さんは「ウサギどんのサカナつり」や、宮沢賢治の「ざしき童子のはなし」などを、菅原さんは『町かどのジム』より「ジムのたんじょう日」や、スペインの昔話「のみ」などを語ってくださいました。おふたりの個性が光るお話会でした。

これまで5回にわたるお話会への参加者はのべ392名、収益は837,445円です。語り手とご来場くださった聞き手の皆さまに、あらためてお礼申し上げます。当館では息の長い支援を続けるため、これからも「チャリティお話会」を開催していきます。どうぞ足をお運びくださいますよう。

※第1回の語り手の方々は、池田信子、川端英子、久慈英子、左近司マサ江、佐藤千代子、柴崎妙子、下澤いづみ、鈴木典、徳永明子、朽谷洋子、中尾幸、長谷川幸子、平井富久子、平田和代、平田美恵子、平塚ミヨ、藤井早苗、細川律子、光野トミ、森尾靖子（敬称略）

陸前高田子ども図書館「ちいさいうち」の司書、  
吉田佳織さんが結婚され、  
中井佳織さんになりました。おめでとうございます！

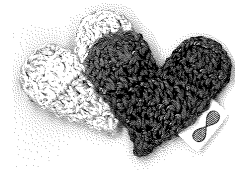




東日本大震災後、当館にて販売し、ご好評いただいている手編みのブローチ。

これは手仕事を通じて東北の被災地を支援するプロジェクト「EAST LOOP」の製品です。

代表の高津さんにその活動をご紹介します。



### 手編みのあたたかさのあるハートブローチや花ブローチ

東京子ども図書館さんでも長く取り扱っていただいている EAST LOOP のブローチは、東日本大震災で被災された方たちの手で作られたもので、商品代金の 50% が生産者グループの収入となります。台紙の裏には作り手さんのニックネームと作られた場所が載っており、フェイスブックを通じて作り手さんにメッセージを送ってもらえる仕組みにもなっています。この EAST LOOP のはじまりや経緯、今の作り手さんの想いなどについてお話ししたいと思います。

EAST LOOP は、震災直後にスタートしたプロジェクトです。フェアトレード商品<sup>※</sup>を取扱う株式会社福市<sup>ふくいち</sup>を営んでいる代表の高津が、ものづくりによる支援をしたい、と立ち上げました。最初は「被災地の人たちに仕事をさせるなんて……」と、受け入れてもらえなかったのですが、現地の NPO 法人「遠野山・里・暮らしネットワーク」とパートナーとなり、なんとかスタートすることになりました。

最初の製品は、糸とかぎ針だけあれば場所を選ばず、どこでも作れることなどからニット製のブローチに決定。小さなハートを二つ重ねたかわいらしいデザインは、「被災地の方々とハートでつながってほしい」という想いが込められています。最初は 20 名ほどの作り手さんだったプロジェクトも、これまでに約 200 名の作り手さんが参加しています。以下は今も活躍してくださっている作り手さんからのコメントです。

「きっかけは、震災で全壊し暗くなっていた私に友達がやりなさいと背中を押してくれたことです。7 月末、余震がある中 2 時間かけて避難所に来て、ほかの作り手さんが講習してくれました。大好きな編み物ができるという喜びの反面……大丈夫？ できるかしらと、不安な面もありましたが、作品のハートブローチがあまりにもかわいくて、色も 5 種類もあり沢山編みたいと思い、被災した皆と一緒に頑張ろうと決めて今日にいたってます。応援してくれている皆さんに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。」(宮古市 ピンク)

今年の 7 月からは本格的な自立へ向けて、支援グッズにとどまらず東北発の手仕事ブランドを目指す「東北クロッシェ村(東北発のオリジナル手仕事ブランドを目指す会社)」に事業移管を行いました。いつの日か被災地の復興が成り、「被災地」発ではなく、「東北」発の素敵な手仕事ブランドの編み手として EAST LOOP のメンバーが輝く日を目指して取り組んで参ります。

代表 高津玉枝

※フェアトレードとは経済格差、紛争、自然環境の変化などにより厳しい立場に置かれている主に途上国の人たちとの公正で継続的な貿易のことで、彼らの自立や生活改善を目的としています。



・東北支援復興プロジェクト「EAST LOOP」 <http://www.facebook.com/EASTLOOP>

・フェアトレードのセレクトショップ Love & sense <http://www.love-sense.jp/>

・Love & sense OnlineShop

<http://shop.love-sense.jp/> <http://www.facebook.com/LOVEandSENSE>